

夏まつりなどに係る食材や飲み物代に対して、当面、1自治会・年間3万円の助成をさせていただくこととしたところ です。

今後においても、自治会連合会と連携しながら、町民が主体的に参加するための基盤として重要な役割を担っている自治会機能の活性化と維持向上を図っていきます。

0歳児から2歳児までの保育料無償化について

こどもの関係については、こども未来室を設置して「雄武町こども計画」を策定し、子育て支援をはじめとする、こども子育ての対策を包括横断的な連携のもとで、全庁的に取り組んでいるところですが、保育所入所児童に関して、本年度から多子世帯における保育料負担の緩和などを講じることとし、これまでの3歳児から5歳児までの保育料無償化に加えて、0歳児から2歳児までの入所児童に対しても保育料無償化を実施したところです。

今後においても、子育て世帯の負担軽減に努めていきます。

「教育行政報告」

雄武高等学校存続対策事業について

道立の雄武高校については、町内の児童生徒数の減少により、町内から雄武高校への入学者だけでは、一定数を確保することが困難になっています。近年の入学者は、令和6年度に19名、令和7年度に14名、令和8年度に19名と、3年連続で20人を下回っており、北海道教育委員会の「これからの高校づくりに関する指針」改訂版に基づき、現在は高校の特色化・魅力化と入学者確保に取り組む集中取組期間として、再編整備を留保されている状況となっています。

このような状況の中、雄武高校においては、令和9年度の入学生から全国募集を開始することになっており、その支援として、町教委では全国募集をサポートする「地域みらい留学制度」を活用し、8月下旬の東京都での高校説明会への参加などにより、令和9年度から道外からの入学者の確保を図ることとしています。

雄武高校の全国募集にあたっては、競合するほかの高校との差別化を図るためにも、更なる特色化・魅力化を進めていかなければならないところです。

そのため、雄武高校では、全国的にも人気となっているeスポーツ

部を今年度中に設立する予定であり、eスポーツ部設立に係るパソコン等購入費用について、町で支援をすべく6月議会定例会で必要経費を補正させていただいています。

また、佐賀県雄武市への夏休みの児童派遣について、来年度に派遣対象を雄武高校生にも拡大できないか検討しており、町教委として武雄市教育委員会と協議していきます。

更に、道外からの入学者に対する食生活の保障という観点から、希望生徒に対する給食の提供も検討しています。

以上、eスポーツ部設立や佐賀県武雄市訪問、給食提供について、実現の見通しのたったものから、現在町教委で定期的に発行している「雄武高校魅力化通信」において、町内外の中学校3年生向けにPRしていきます。

なお、雄武高校の全国募集にあたっては、道外からの入学者の住宅を用意する必要があるため、現在1棟4戸すべて空いている潮見町教員住宅の活用が可能かどうか、そして、改修など必要かどうかについて、関係課と協議する予定となっており、改修が必要となれば、9月議会です算の補正も想定しています。

また、道外からの入学者の食事を含めた生活をサポートするハウスマスターも探す必要があります。そのほか、雄武高校に興味・関心のある道外の中学生が、雄武高校が実施す

「意見交換、質疑応答等」

7月27日(月) (魚田地区)

○ 小中学校を統一するにあたって、高校も統一にはできないのでしょうか。

答教育長

小中学校は町立、高校は道立となっており、設置者が違いですが、小中高がこれまで以上に連携して密接に協力しながら、児童生徒を育んでいくことが必要だと思います。高校でも小中でしっかりと育てた児童生徒を受け入れて、小中高で連携した教育活動をこれまで以上に進めていきたいと思っています。

○ 雄武高校の魅力向上について、どのように考えていますか。

答教育長

雄武高校にどのような魅力があるのかという指摘は非常に重く受け止める必要があると思っています。現在は、地元の特産品づくりのプロジェクトを実施し、町の発展に貢献できるような商品開発を行っています。また、まだまだ途上だと思っておりますが、これからますます発展させていかななくてはと思っています。雄武高校で町の現状を知り、発展のためにどういったことを高校生自身が考えられるのかという教育活動や探究活動を深めなければならないと思っています。今回いただいた意見を高

る高校説明会などに参加する際の旅費（交通費および宿泊費）の一部助成を行うべく、6月議会定例会において必要経費を補正させていただいているなど、雄武高校の全国募集にあたっては、全面的に支援をしていく考えです。

来週の8月6日(木)の18時から、町民センターにおいて「雄武高等学校存続対策協議会兼地域懇談会」を開催することとしており、雄武高校の現状や取り組みを地域に広く理解いただくとともに、協議を通じて、生徒募集の効果的な取り組みについて、地域が協力することへの気運を高める機会としたいと考えています。町民の皆さまのご参加をお願い申し上げます。

新しい学校づくり事業について

本町の小・中学校は、児童生徒数の減少に伴い学校の小規模化とへき地校の統廃合が進んだ結果、現在は小学校2校、中学校1校となっています。児童生徒数の減少は今後も続くこと、現存している小学校と中学校はいずれも建築後40年以上が経過し老朽化が進んでいること、義務教育9年間を通じた系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む機運が高まっていることなどの理由から、こどもたちのためのより良い教育環境の確保が必要とされています。

このような状況を踏まえ、町教委では、有識者や公募委員、学校関係

校にも伝えさせてもらい、もう一度、本町の高校の魅力は何かということ時間をかかるともかもしれませんが、考えていきたいと思っています。

○ 子育て世帯が安心して暮らすため、小児科などの医療体制を充実させることが必要ではないでしょうか。

答町長

小児科の問題について、現在、雄武町は月曜日と金曜日に旭川医大から小児科の先生に来てもらっています。私自身、広域紋別病院にいましたが、広域紋別病院でも常勤の先生は3人で朝から晩までずっと動いている状態ですが、小児科の先生が増えないという現状があります。ただ、おっしゃられているとおり、子育てをしていくうえでは安心して医療を受けられることは重要なことです。ので、機会を捉えてしっかりと訴えていきたいと考えていますし、旭川医大に行った際には、もう少し診療にあたっていただけなのか、拡充ができますかということを含めていきますので、現状、小児科の先生は厳しい状態であることについては、ご理解をいただければと思います。

○ 他地域との学力格差を懸念しています。地域の特産品開発などの取り組みだけでなく、大学進学などの将来の進路を見据え、学力の向上や学力差に応じた教育にも力を入

者、地域住民の代表などで構成される「雄武町新しい学校づくり検討委員会」を設置し、本町における義務教育の更なる質の向上と充実に向けて、喫緊の課題となっている小学校および中学校校舎の老朽化、人口減少に伴う児童生徒数の減少、小中一貫教育の推進、学習活動が多様な形態に変容していくことへの対応など、本町を取り巻くさまざまな課題の解決と本町が掲げる教育目標の実現に向けて検討を重ねた結果、小中一貫教育を推進する学校施設の整備に向けて検討を進めることとしました。

これを受けて、新たに設置する小中一貫校の整備に関する基本的な考え方や方針について検討を進め、このたび「雄武町新しい学校づくり基本構想」を策定するに至ったところです。

新たに整備を目指す小中一貫校は、児童生徒数は170人前後、普通学級は9学級規模の施設一体型義務教育学校を想定しています。建設予定地は雄武小学校または雄武中学校の敷地で、整備方法は既存校舎を改修し、更に不足分を増築する方法と、既存校舎を活用せずに新築する2通りを想定しており、具体的な建設予定地や整備方法については、本年度に行う基本計画策定の中で、それぞれのメリットとデメリット、建設費や維持管理に要するコストを含めて比較検討のうえで決定します。

